

[2] 開発主体の考え方

中津川市における小水力発電の開発は、市民・事業所・市の各主体を、開発に必要な事業費規模により以下を基本として考えています。

- ・小～マイクロ水力発電 中津川市、事業所 事業費 数百万円～数億円
- ・ピコ水力発電 市民(団体)、事業所 事業費 数百万円以下(資料-13)

なお、前項(「1-3 開発地点の選定」)で選定したピコ水力発電の3地点は、小水力発電開発の市民・事業所へのPR効果や啓発効果が大きいので、市が主体となって開発します。

・馬籠地区 水車小屋

全国からの観光客が訪れる馬籠の入口に位置する水車小屋の水車で小水力発電を行うことにより、小水力発電開発のシンボルとなります。水車小屋は知名度が高く、環境にも配慮する計画とすることにより、世の中へのアピール度が高く、啓発効果が大きいと考えています。

・中津川地区 ミニ中山道

市役所南のポケットパークの水車を利用し、周辺の街路灯の電源とすることにより、小水力発電開発のシンボルとして啓発効果が大きいと考えています。

・中津川地区 東さくら幼稚園

市街地に近く、防犯灯の設置を考えています。

防犯灯設置による安全な街づくりに関する啓発効果が大きいと考えています。

資料-13 ピコ水力発電機の事例紹介

中津川市内は小水力発電開発に必要な年間安定した水量や落差に恵まれています。ピコ水力発電所の開発地点は中津川市内に多数あると考えています。

下の写真のような簡易で経済的な小型の水車や発電機も開発されています。市民(団体)、事業所からの提案やご意見に基づき今後は検討を進めていきます。



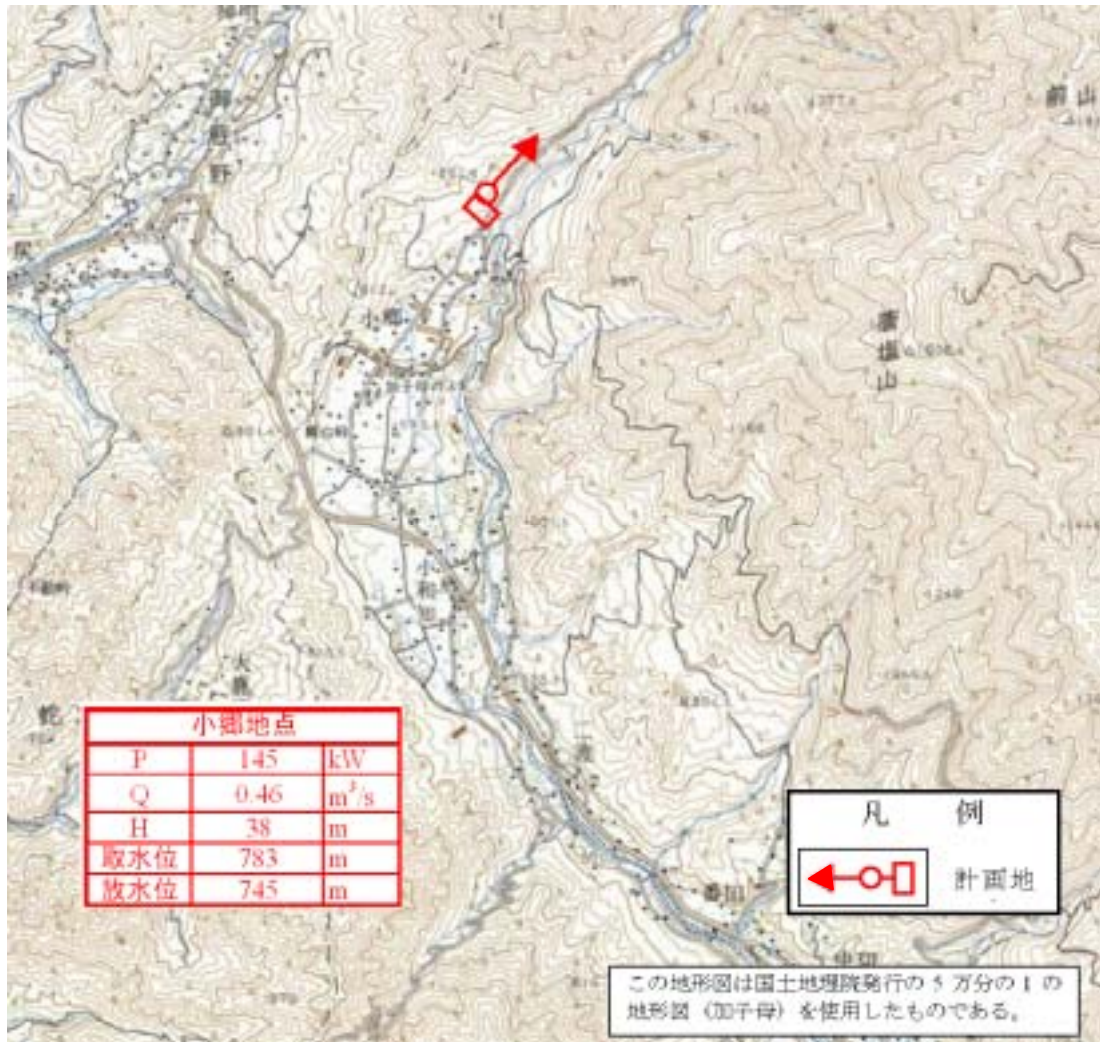
(出典：(株)イズミ)

[3] 中津川市が主体となって開発する水力発電計画

3-1 小郷（加子母地区）

小郷地点はマイクロ水力発電の水力発電計画は以下です。

取水 小郷用水
 最大使用水量 0.46m³/s



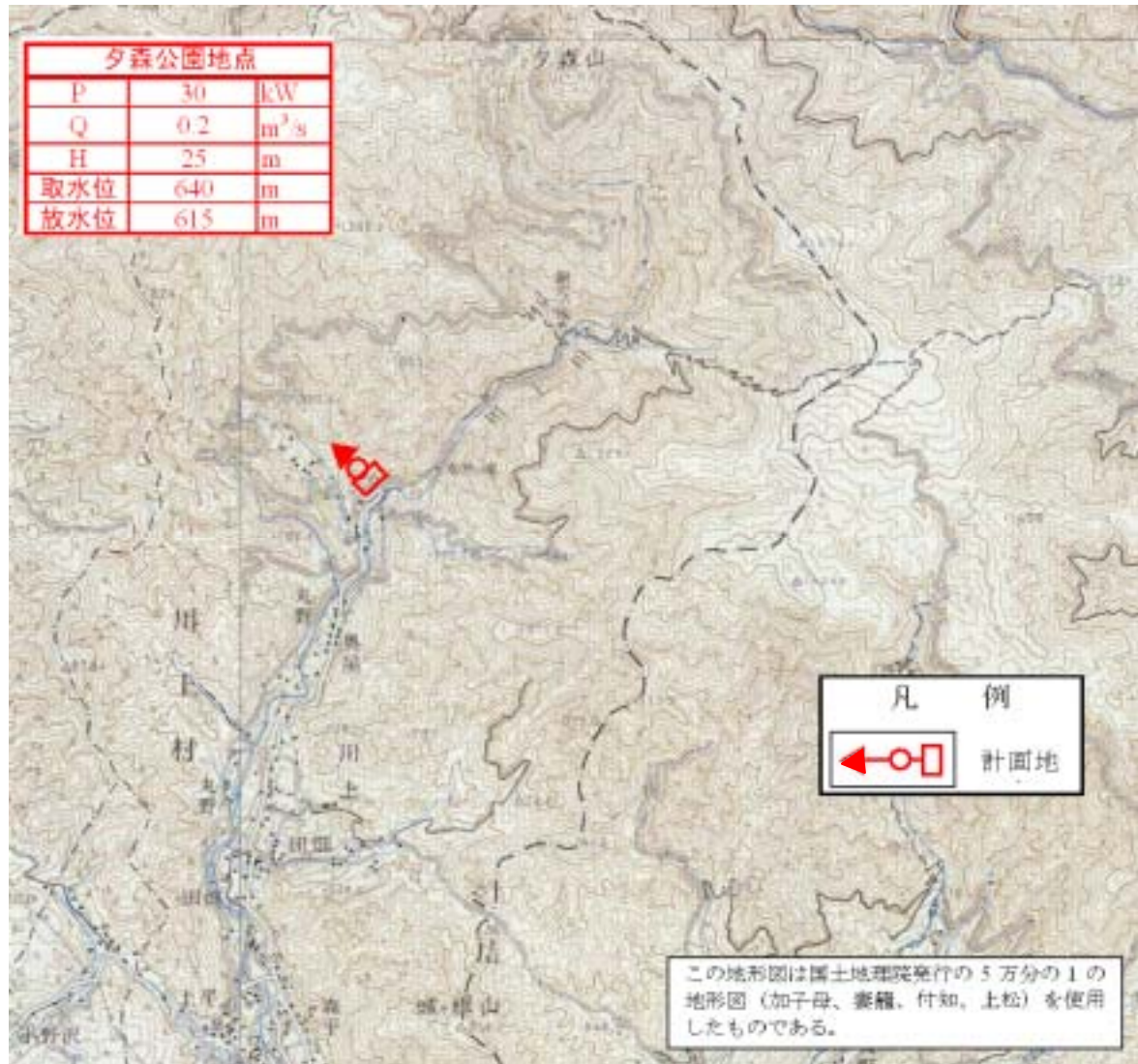
（図面は平成21年度ハイドロバレー計画への申請書類からの抜粋で、実施段階では変更になる可能性があります）



3-2 夕森公園（川上地区）

夕森公園地点のマイクロ水力発電計画は以下です。

取水 砂防ダム
 最大使用水量 0.2m³/s



（図面は平成21年度ハイドロバレー計画への申請書類からの抜粋で、実施段階では変更になる可能性があります）



3-3 馬籠の水車小屋（馬籠地区）

馬籠の水車小屋のピコ水力発電計画を考えている水車です。

（詳細は平成 21 年度以降に検討を行う予定です）



3-4 ミニ中山道（中津川地区）

ミニ中山道のピコ水力発電計画を考えている水車です。

（詳細は平成 21 年度以降に検討を行う予定です）



3-5 第一用水末端～東さくら幼稚園（中津川地区）

第一用水末端の東さくら幼稚園脇のピコ水力発電計画を考えている箇所です。

この落差を利用して発電を行い、周辺の街路灯の電源などに用いることにより地域の安全につながります。

（詳細は平成 21 年度以降に検討を行う予定です）

